平成23年12月21日

日本学術会議会長 殿

課題別委員会設置提案書

日本学術会議が、科学に関する重要事項、緊急的な対処を必要とする課題について審議する必要があるため、日本学術会議の運営に関する内規第11条第1項の規定に基づき、下記の通り課題別委員会の設置を提案します。

記

1. **提案者** 会長
2. **委員会名** 医師の専門職自律の在り方に関する検討委員会
3. **設置期間** 平成23年12月21日（幹事会承認日）から平成25年9月30日

4. 課題の内容

(1) 課題の概要

医療に対して「量的保証」だけでなく「質的保証」が必要とされるのは、先進国共通の国民的要求であるが、日本においてはそのための医療の質的保証に係る体制整備が遅れており、病院医療が機能不全に陥る事例が生じるなどの問題を抱えている。

このような事態に対して日本学術会議は、平成20年6月に「要望 信頼に支えられた医療の実現－医療を崩壊させないために」を取りまとめ、医療者、政府、国民のそれぞれが行うべきことを明らかにするとともに、平成22年4月に公表した「日本の展望－学術からの提言2010」においても、現状の改革が急務であることを訴えた。

しかし、日本の医療の状況にもかかわらず、必要な対策が講じられてこなかったこと背景には、すべての医師の声を集約し、医師の専門職自律や質の向上のための建設的意見を発出できる組織がこの国には存在していないという問題がある。この問題について、前述の要望等では明示的に取り上げることができなかったが、行政の役割が、現実には、所与の枠組みを前提として、多様な利害関係者の表層的な調整に留まることが多い状況に鑑みても、その本質的な重要性は明らかである。

現代の日本に相応しい医師の自律的な専門職能団体の在り方を明らかにし、それを実現するための具体的な方策を提案することが、本委員会が審議すべき課題である。

(2) 審議の必要性と達成すべき結果

(1) で述べた課題に関して、平成22年2月に臨床医学委員会「医師の専門職自律に関する分科会」は、①医療の倫理性の確保のための医師の自律的な懲戒権、②医師の生涯教育機能、

③医療のあり方に関する提言機能、④医療に関する調査・情報収集機能を備えた、医師の全員加盟による新たな専門職能団体の設立の必要性に係る提言案を、同年10月の幹事会に提案したが、了承を得るところとはならなかった。

このため、新たな専門職能団体に関して、同団体と国家（行政機関）並びに国民との関係、同団体と個々の医師との関係という主に2つの視点を踏まえつつ、法制度面についても検討を図るため、課題別委員会「医師の専門職自律検討委員会」を設置して、医師以外の様々な分野の専門家の参画を得ながら審議を進めたが、第21期期間中には、科学と社会委員会での査読対象の段階には至らなかった。

しかし、この課題は日本学術会議として重要であり、科学と社会委員会において「第21期の審議結果を踏まえ引き続き検討を進める」とされているところである。

そこで、第22期においては、より多角的な検討を通して、現代の日本に相応しい医師の自律的な専門職能団体の在り方等について新たな視点を加えた議論を更に進め、具体的な提言の取りまとめを目指すこととする。

(3) 日本学術会議が過去行った関連する報告等の有無

- ・ 対外報告 「医師の偏在問題の根底にあるもの — 提言：量から質の医療への転換による克服」（平成19年（2007年）6月21日、臨床医学委員会医療制度分科会）
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t39-2.pdf>
- ・ 提言 「臨床医学会の社会的責任—腎・泌尿・生殖医療分野の立場から」（平成20年（2008年）7月24日、臨床医学委員会腎・泌尿・生殖医療分科会）
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-t60-1.pdf>
- ・ 要望 「信頼に支えられた医療の実現 — 医療を崩壊させないために—」（平成20年（2008年）6月26日、日本学術会議）
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-y3.pdf>
- ・ 日本の展望—学術からの提言2010（平成22年（2010年）4月5日、日本学術会議）
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-tsoukai.pdf>

(4) 政府機関等国内の諸機関、国際機関、他国アカデミー等の関連する報告等の有無

- ・ WMA Declaration of Madrid on Professional Autonomy and Self-Regulation
World Medical Association (WMA)
<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/20archives/a21/index.html>
<http://www.med.or.jp/wma/madrid.html>

(5) 各府省等からの審議要請の有無

無し。

5. 審議の進め方

(1) 課題検討への主体的参加者

本件設置提案が了承された後に、会長から各部に対して委員の推薦を依頼する。

(2) 必要な専門分野及び構成委員数

すべての専門分野。

各部の会員又は連携会員に加え、若干名の特任連携会員、計20名以内

(3) 中間目標を含む完了に至るスケジュール

日本の医療を取巻く問題状況を勘案しつつ、平成25年9月頃までを目途に報告書を取りまとめることを目指す。

6. その他課題に関する参考情報

国民の生命・健康に重大な責任を有する医師が自らを厳格に律するための団体・制度は、各国・各時代によって具体的な形態に違いがある。各国の事例や我が国の過去の歴史的経緯を参考にしつつ、俯瞰的な視点から現代日本社会の特質を踏まえて、我が国に相応しい在り方を検討する。